

ID No.	224
研究課題名	秋田県における成人T細胞性白血病の分子疫学・分子病理学調査
研究代表者	後藤 明輝 (秋田大学・教授)
研究組織 受入教員 研究分担者	村上 善則 (東京大学医科学研究所・教授)
研究報告書	
<p><b>症例の収集・臨床病理学的検討</b></p> <p>秋田大学医学部附属病院および由利組合総合病院の過去20年の解剖例を参照し、9例のATL症例を見出した。そのATL病型の分布は全国調査とほぼ同様の傾向を示すが、慢性型(2例、22%)がやや多い。最終的に20-30例のATL症例を研究対象とすることを目標とし、上記の2病院以外の病理解剖結果を参照中である</p> <p><b>分子疫学的検討・マイクロRNA異常の検討</b></p> <p>死後変化などを経て必ずしもタンパクの保存状態が良好であるとは言えないATL病理解剖例で、TSLC1/CADM1 およびその関連タンパクの免疫組織化学的発現検討が可能であるか、予備的検討として、vimentin など、保存状態のマーカーとなるタンパクに対する免疫組織化学を施行した。その結果、各例で免疫組織化学は施行可能であることが確かめられた。また、HTLV-1の分子疫学的解析サブタイプ検討のために、凍結保存検体の有無を各症例につき、検索中である。</p> <p>CADM1 発現抑制をきたす miRNA 候補が同定されているが(成果発表文献3)、これらのmiRNAがATL病理解剖例で半定量的PCRを用いて測定可能であるか、やはり予備的検討を行ったところ、測定可能であることを見出した。</p> <p><b>CADM1異常の検討</b></p> <p>上記の病理解剖例につき、CADM1免疫組織化学およびそのプロモーター領域のDNAメチル化解析を施行中である。</p>	
成果発表 <論文>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Takahashi Y, Iwai M, Kawai T, Arakawa A, Ito T, Sakurai-Yageta M, Ito A, Goto A, Saito M, Kasumi F, Murakami Y. Aberrant expression of tumor suppressors CADM1 and 4.1B in invasive lesions of primary breast cancer. <i>Breast Cancer</i>. 19(3) 242-252. 2012</li> <li>2. Nagata M, Sakurai-Yageta M, Yamada D, Goto A, Ito A, Fukuhara H, Kume H, Morikawa T, Fukayama M, Homma Y, Murakami Y. Aberrations of a cell adhesion molecule CADM4 in renal clear cell carcinoma. <i>Int J Cancer</i>. 130(6) 1329-1337 2012</li> <li>3. Ishimura M, Sakurai-Yageta M, Maruyama T, Ando T, Fukayama M, Goto A, Murakami Y. Involvement of miR-214 and miR-375 in Malignant Features of Non-Small-Cell Lung Cancer by Down-Regulating CADM1. <i>J Cancer Therapy</i>, 3. 379-387. 2012</li> </ol>	